

投 稿 規 定

(2018年12月 1 日改訂)

産業衛生学雑誌は、Journal of Occupational Health (JOH) とともに日本産業衛生学会の機関誌で、学会員による研究成果の発表、学会員同士の情報交換を行う和文誌である。学術・実務の両面にわたり、わが国の産業衛生学の発展に寄与するため、基礎的な実験や職域をフィールドとした疫学研究から実務で経験された好事例等も含めた広い範疇の投稿を受け入れ、掲載に向けて検討を行う。

1. 投稿資格

投稿は原則として日本産業衛生学会会員に限る。

2. 投稿内容

投稿原稿は本誌の目的に沿い、国の内外および言語を問わず他誌に発表または、投稿中や査読中ではないものに限る。

3. 倫理規定

(1) 人を対象とする研究報告は世界医師会によるヘルシンキ宣言の精神に則り、厚生労働省が提示する医学研究に関する指針一覧に記載があるものについて遵守すること。これらは、研究開始に先立ち研究実施機関若しくは国の倫理審査委員会による承認を受けること、倫理審査委員会による審査を必要としなかった場合については、該当しない旨を投稿論文内に明記すること。日本産業衛生学会員は、研究実施機関で研究開始前に然るべき倫理審査が受けられない場合、日本産業衛生学会倫理審査委員会へ内部審査を申し込むことができるものとする。

(2) 人を対象とする研究報告は、被験者（研究対象者）へ研究内容について予め十分に説明し、自由意思に基づく同意（インフォームド・コンセント）を得ること。同時に、患者の特定を防ぐため、被験者（研究対象者）の名前、イニシャル、特定の日付や患者番号等、個人を識別することができる情報を論文に含まないこと。写真を用いる際は報告対象箇所のみとすること。

(3) 実験動物を用いた研究報告は各施設の動物実験指針や精神および基準等を遵守して行われたものであること。

4. 投稿方法

原稿はオンライン投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」を使用して投稿する。

<https://mc.manuscriptcentral.com/saneishi>

※アカウント登録が必要になります。

アップロード可能なファイルフォーマットは次のとおりとする。

本文：doc (docx)

図：jpg, gif, eps, tiff, ai, psd, および ppt (pptx)

表：xls (xlsx), および ppt (pptx)

5. 原稿の種類

投稿原稿の種類は次のとおりとする。

総説：ひとつのテーマに関連する多くの研究論文総括、評価、解説。

原著：研究結果、研究方法、研究材料、自他の研究成果の解釈等において新知見または創意が含まれているもの、およびこれに準ずるもの。

短報：原著と同じ性格で速報的に書かれたもの。

事例：産業衛生学的に興味深い症例や労働諸条件改善事例などの報告。

調査報告：産業衛生に関する実態調査などの報告でデータ自体が利用価値を有しているもの。

資料：本学会の委員会、研究会などが集約した意見書、報告書、およびこれに準ずるもの。

編集者への手紙：掲載論文に対する意見など。

話題：産業衛生に関する最近の話題、その他会員の自由な意見。

6. 論文の採否

投稿原稿の採否は編集委員会で最終的に決定する。

7. 著作権

本誌に掲載された論文等の著作権は日本産業衛生学会に帰属する。

8. 利益相反 (Conflict of Interest, COI)

当該論文にかかる著者全員の潜在的利益相反 (COI) 状態の有無を明確に申告しなければならない。COI に含まれるものには、研究支援への合意 (研究資金および機材や材料の提供を含む)、謝礼 (講演料など)、顧問料、顧問職への就任、雇用、販売促進費、株式の保有、特許またはライセンス料を含むがこれらに限定されず、研究材料またはその過程において経済的関係のあるバイオテック企業、製薬会社、その他営利目的とする組織との間で生じるいかなる経済的、組織的または個人的な経済的関係を含む。投稿の際に著者全員は、論文発表に関わる企業・組織や団体との COI 状態の有無を、原稿のタイトルページに“利益相反”と題し各著者の COI 状態を、下記例文を用い明記しなければならない。また政府機関等の非営利団体が

ら研究資金援助を受けた場合も、タイトルページに“資金提供”と題し資金源の詳細を明記すること。これらの申告内容は掲載論文の末尾に記載し公開される。

- 1) 自己申告すべき COI 状態がない場合は、「利益相反自己申告：申告すべきものなし」と記載する。
- 2) 自己申告すべき COI 状態がある場合は、以下の記載例の如く記載する。
(執筆者の記載例)
著者 A は X 株式会社から資金援助を受けている。
著者 B は Y 株式会社の社員である。
著者 C は Z 株式会社の顧問である。

9. 執筆要項

- (1) 原稿本文は原則として Microsoft 社の Word (doc または docx) を使用。A4用紙の横書きとし、左余白に行番号を入れ、フォントサイズは12pt で作成する。行間は 2 行 (double space) とする。また本文の Word ファイルに図表を含めないこと。
- (2) 1 頁目は和文タイトルページとし、次の項目を記載する。「表題」「40文字以内のランニングタイトル」「著者名」「所属機関名」「代表著者の連絡先 (E-mail アドレス, 住所, 電話番号)」「原稿の種類」「表および図の数」「フィールド (下記の専門領域一覧を参照し 2 つまで選択可)」
2 頁目に英文タイトルページを用意し次の「表題」「ランニングタイトル」「著者名」「所属機関名」「代表著者の連絡先 (E-mail アドレス, 住所, 電話番号)」「キーワード」を全て英語で記入する。なお資料、編集者への手紙および話題の場合、キーワードは不要とする。
- (3) 抄録は総説、原著、調査報告で和文・英文共に用意をし、目的 (Objectives)、対象と方法 (Methods)、結果 (Results)、考察と結論 (Conclusions) の見出しを入れた構造化抄録 (Structured Abstract) とする。
- (4) キーワードは英文で 6 語以内とする。
- (5) 短報および事例は図表を含め刷り上がり 4 頁以内とする。(表紙を除き図表を含め A4用紙750字詰10枚、ただし図表は一点を0.5枚とみなす。)
- (6) 図表中の文字と説明は英文もしくは和文で統一して作成。引用順にそれぞれ図は Fig. 1 (図 1), Fig. 2. (図 2) …, 表は Table 1 (表 1), Table 2 (表 2) …のような番号をつける。また、図表は 1 つにまと

めず、1 表 1 図ごとデータを用意し、挿入する箇所を本文中に明記する。Doc (docx), xls (xlsx), ppt (pptx) など、複数ページにまたがるファイルの場合、それぞれの図・写真の中に番号を記入する。図表は縮小製版できるよう鮮明なものを用意すること。

- 表の書式
- ・表の罫線は縦罫線を使用しない。
 - ・表中の文字は通常フォントを使用し、太字の指定はしない。

- オッズ比・ハザード比
- ・オッズ比、ハザード比は信頼区間を明示する。
 - ・オッズ比の有効桁数は 2 桁で表示する。

- P 値
- ・p 値の有効桁数は小数点以下 3 桁で表示する。(例 $p<.001$)
 - ・p 値の小数点以下の表示の際は頭にゼロを載せない。(ただし 1 が存在するデータには、整数一桁のゼロは必要)
 - ・p 値の“p”はイタリックの小文字にし英語の場合は“p”と“value”の間にハイフン“-”を入れる。(例 p -value)

- (7) 単位記号は原則として国際単位系 (SI) を使用する。

重さ	t, kg, g, mg, μ g, ng, pg 等
長さ	m, cm, mm, μ m, nm 等
容積	l, dl, ml, μ l, nl, pl, fl 等
濃度	g/l, mg/l, mol/l, g/dl 等
時間	yr, mo, wk, d, h, min, s, ms 等

◆各種類に対する規定一覧◆					
	和文抄録	英文抄録 (400語以内)	キーワード (英語)	文字数制限	
総説	要	要	6 語以内	—	
原著	要	要	6 語以内	—	
短報	不要	不要	6 語以内	7,500文字以内	
事例	不要	不要	6 語以内	7,500文字以内	
調査報告	要	要	6 語以内		
資料	不要	不要	不要	—	
編集者への手紙	不要	不要	不要	—	
話題	不要	不要	不要	—	

- (8) 地方会・研究会の一般口演抄録は本文400文字以内とする。
- (9) 文献は引用順に番号をつけて最後に一括し、下記の記載例の形式で表す。本文の引用箇所の右肩にも「…知られている¹⁾、または、…²⁻⁵⁾、…^{1,3-6)}」のように文献番号をつける。
- 文献の著者が7名以上の場合は最初の3名を記載し、あとは「ほか」(英文の引用では et al.) とする。

【記載例】

<学術雑誌>著者名, 表題, 雑誌名, 発行年 (西暦):巻: 頁- 頁.

- 1) 佐藤章夫, 遠藤和志, 金子 誉, 米原郁美. 有機溶剤の生物学的暴露モニタリングに影響を与えている環境および生理的要因. 産業医学 1991;33:3-16.
- 2) Omae K, Nakashima H, Takebayashi T, et al. No-effect level of subacute tetraethoxysilane inhalation on the mouse kidney. J Occup Health 1995;37:1-4.

<単行本>著者名, 表題, 編者名, 書店, 発行所所在地: 発行所, 発行年 (西暦):引用頁- 頁.

- 3) 千代谷慶三, けい肺, 三浦豊彦, 池田正之, 小山内博, ほか編. 現代労働衛生ハンドブック. 川崎: 労働科学研究所出版部, 1988:723-6.
- 4) Rosenberg J. Effects of medications on biological levels of industrial chemicals. In: Fiserova-Bergerova V, Ogata M. eds. Biological monitoring of exposure to industrial chemicals. Cincinnati: ACGIH, 1990:159-62.

<オンライン>

- 5) International Council on Archives. ISAD (G): General International Standard Archival Description. [Online]. 1994 [cited 1997 Sep 2]; Available from: URL: <http://www.archives.ca/ica/isad.html>

上記の記載例はRecommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals. に準じた。雑誌名略記はIndex Medicus 参照。

10. 著者負担費用

掲載料は刷り上がり 6 頁までは学会負担, 超過分 (1 頁あたり約10,000円) は著者負担とする。

別刷りは50部まで無料, 超過分は著者負担とする。(総説, 原著, 調査報告は50部まで5,000円, 50部増すごとに

5,000円増, 短報, 事例は50部まで2,500円, 50部増す毎に2,500円増, 表紙付は部数にかかわらず5,000円増とする) 希望の場合は校正の際に明記する。

11. 校正

著者校正は 1 回とする。

12. 専門領域

産業衛生学雑誌は、査読プロセスを迅速化するため、6つの専門領域からなるフィールドを設定している。投稿の際、該当論文が扱う領域としてふさわしいフィールドを2つまで選択し、表紙に記載すること。

◆専門領域一覧◆

フィールド	取り扱う内容例
化学物質ばく露／中毒学	化学物質に関する中毒学：実験研究・疫学研究・ばく露評価・生物学的モニタリング, 石綿, じん肺,
物理的要因／人間工学	ワークステーション・作業態様・作業条件と筋骨格系障害・疲労などの健康影響, 職場の物理的環境・安全に関する研究, 産業疲労, 労働生理.
メンタルヘルス／心理社会的要因	労働者のメンタルヘルスとその関連要因に関する研究, 職場の心理社会的要因とその健康影響に関する研究.
産業保健活動／産業保健職	産業保健職の役割や諸活動, 産業保健活動に関連する事項, 労働安全衛生マネジメントシステム, 中小企業における活動など.
健康増進	労働者の健康問題の予防 (メンタルヘルス, 化学的要因, 物理的要因以外) に関する研究: 生活習慣病対策, 感染症対策, 口腔保健などに関する研究.
疫学	大規模疫学研究, 労働者の健康問題のトレンド, 国際比較研究, その他労働者を対象として行われる新しいリスクファクターや疫学的方法論を用いた研究.

13. 投稿に関する問い合わせ先

レタープレス(株)内「産業衛生学雑誌」編集部
電子メール : sanei@letterpress.co.jp